

令和５年度 那須塩原市建設工事成績評価結果

１．対象

那須塩原市が発注した設計金額１３０万円を超える建設工事かつ、令和５年度（令和５年４月１日から令和６年３月３１日）で契約検査課が完成検査を実施した建設工事を対象とする。

建設工事完成検査件数

[単位：件]

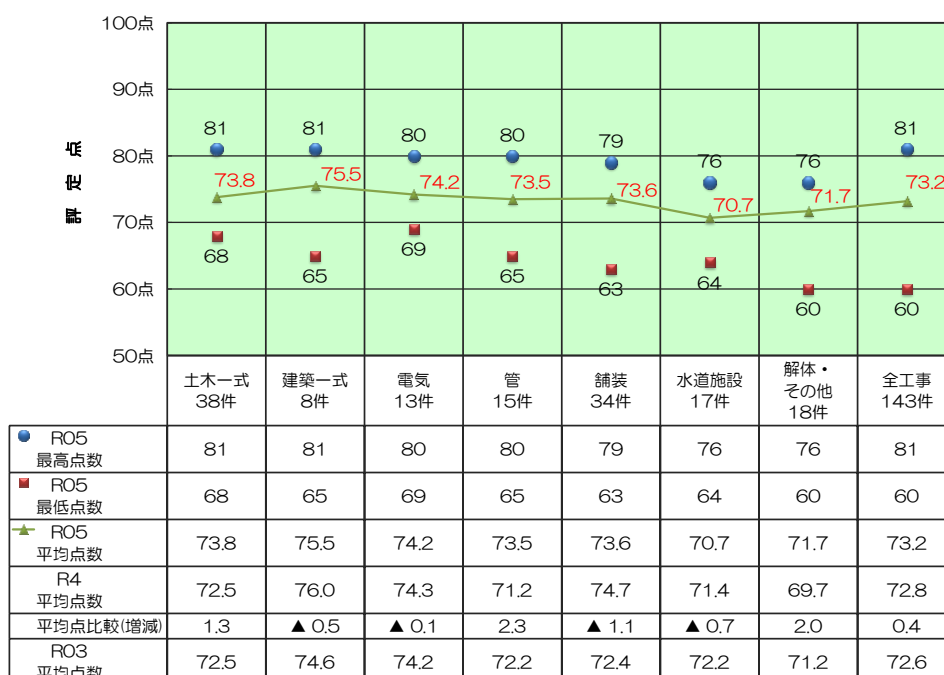
工種別	令和５年度	令和４年度	増 減
土木一式工事	３８	４４	▲ ６
建築一式工事	８	７	１
電気工事	１３	１６	▲ ３
管工事	１５	１３	２
舗装工事	３４	２６	８
水道施設工事	１７	１７	０
その他工事	１８	１２	６
計	１４３	１３５	８

２．評定点

令和５年度に完成検査を実施した全工事の平均評定点は７３．２点であり、直近３か年では大きな変化はなく、ほぼ横ばいであるが、増加傾向にある。（図１参照）

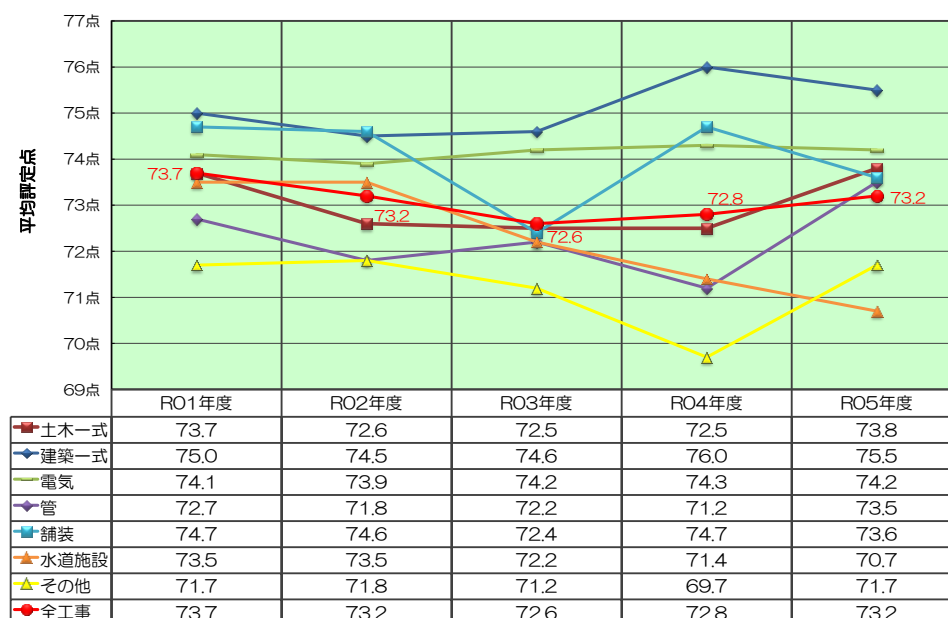
前年度との比較では、全体で０．４ポイント上昇した。工種別では、建築一式工事、電気工事、舗装工事、及び水道施設工事で下降する結果となったが、土木一式工事、管工事、及び解体・その他工事では上昇する結果であった。

図１．令和５年度 建設工事【工種別一平均、最高、最低工事成績評価】



過去5か年の平均点推移では、令和5年度の全ての工種の平均評定点で70点を超えており（図2参照）、水道施設工事及び解体・その他工事以外の工種では全工事の平均評定点の73.2点を超えているなど、一定程度以上の品質確保が図られていると考えられる。しかし、水道施設工事においては、過去5か年の平均評定点の推移が、減少傾向にある。

図2. 過去5か年の建設工事【工種別—平均工事成績評定点推移】



3. 総合評価

総合評価のランク（以下、評価という。）別に分類した場合の令和5年度における工事件数は、A評価は6件、B評価は45件、C評価は87件、D評価は5件、E評価は0件である。（図3参照）

全工事件数に対する各評価工事件数の割合について、A評価は4.2%（令和4年度：4.4%）であった。B評価は31.5%（令和4年度：27.4%）となり、C評価は60.8%（令和4年度：66.7%）となった。今後改善すべき事項があるD評価対象工事は、3.5%となり、令和4年度から2.0ポイント上昇した。指名に影響を及ぼすおそれのあるE評価対象工事は0件であった。全工事の令和5年度工事と令和4年度工事を比較すると、A評価の割合はほぼ横ばいであったものの、B評価の割合は令和5年度工事の方が増加しており、C評価の割合は減少している。しかし、舗装工事ではA評価及びB評価の割合が令和5年度工事の方が減少しており、C評価の割合が上昇している。（図3、図4参照）

図3. 令和5年度建設工事【工種別—総合評価】件数分布状況

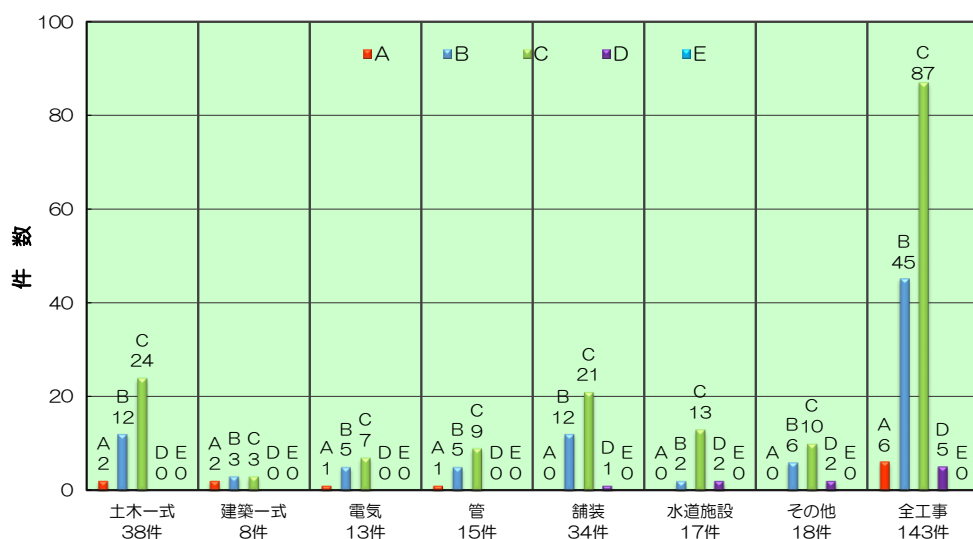


図4. 令和4年度建設工事【工種別—総合評価】件数分布状況

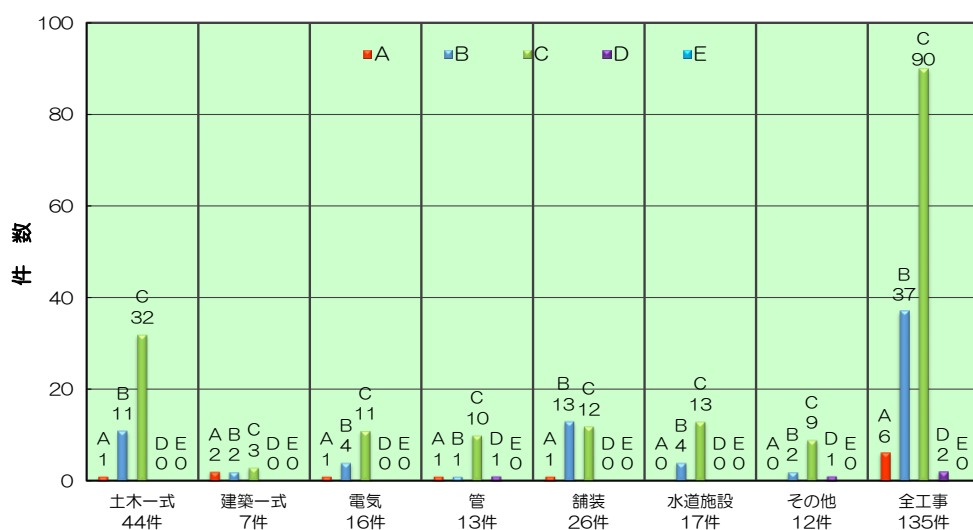


表1. 総合評価の標準

ランク	評定点の標準値	総合評価の標準	
A	80点以上	他の模範となる優秀な工事	
B	75～79点	標準的工事	Aランクではないが、標準的工事の中で優秀なもの
C	65～74点		標準的な工事
D	60～64点		Eランクではないが、今後改善すべき事項がある工事
E	59点以下	今後指名等に影響を及ぼすおそれのある工事	